

第21回生涯学習フェスティバル IN環境展

実施報告書



イベント概要

タイトル : 第21回生涯学習フェスティバルIN環境展

趣旨 : 親子参加型の工作イベントを通じて、次世代を担う子どもたちに省エネの必要性やリサイクルの重要性を理解し、環境保全の意識向上を図ることを目的として実施しました。

～令和8年2月7日(土)～

開催時間 : ソーラーハウスづくり教室 10:30～12:00

LEDランタンづくり教室 13:30～14:30

ソーラートレイン 9:30～14:30

開催場所 : 生涯学習文化振興センター ゆらてく 1階 研修室3 (ソーラートレインのみコモンズ4)

対象者 : 市内在住の親子

定員 : 各講座15組

～令和8年2月8日(日)～

開催時間 : こものづくり教室 9:30～16:30

開催場所 : 生涯学習文化振興センター ゆらてく 1階 研修室3

対象者 : 参加自由

会場

生涯学習文化振興センター ゆらてく
1階 研修室3およびコモンズ4
(うるま市字仲嶺187番地)



ソーラーハウス&LEDランタンづくり教室

- 講師 : 財木 昭収 様
(パナソニック株式会社エレクトリックワークス社)
- 開催日時 : ソーラーハウスづくり教室 10:30~12:00
LEDランタンづくり教室 13:30~14:30
ソーラートレイン 9:30~14:30
- 会場 : 生涯学習文化振興センター ゆらてく1階 研修室3および commons4
- 対象者 : 市内在住の親子
- 参加者 : 各講座15組 (ソーラートレインは自由参加)
- 内容 : 「創エネ・蓄エネ・省エネ」の仕組みを体系的に学習。暮らしとエネルギーのつながりを親子で体感するプログラムを実施した
- 備考 :
・ソーラートレイン備品は事前に受取、当日本市から持参する
・参加者へは時間厳守で来場いただくよう周知を行う



ソーラーハウス&LEDランタンづくり教室

【派遣職員数】

9:00~13:00	うるま市	環境政策課	職員	2名
13:00~17:00	うるま市	環境政策課	職員	1名
8:30~17:00	うるま市	環境政策課	職員	1名
8:30~15:00	パナソニック株式会社エレクトリックワークス社		職員	1名

【イベント参加者】

- ・ソーラーハウスづくり教室：10名
- ・LEDランタンづくり教室：11名
- ・ソーラートレイン：200名※推定

(参加者へ配布するタグ100枚を午前中に渡しきったことを踏まえた計算)

【活動の成果】

太陽光パネルでの発電（創）、蓄電池への充電（蓄）、LEDの点灯（省）という一連のサイクルを工作を通じて体験し、エネルギーの仕組みを体系的に学ぶ機会となった。

白熱電球やLED電球の比較データや、「無理せず、無駄を省く」の印象に残る言葉で、次代を担う子どもたちに省エネについて興味を持ってもらうきっかけとなった。



イベントの様子

ソーラーハウス&LEDランタンづくり教室



こものづくり教室

講師 : 新城 龍刀 様、田場 美妃子 様
(沖縄県地域環境センター)

開催日時 : 令和8年2月8日(日) 9:30~16:30

会場 : 生涯学習文化振興センター ゆらてく1階 研修室3

対象者 : 対象制限なし

参加者 : 自由参加

内容 : 不要なチラシや衣類から、ペーパービーズやコースターを作り、
資源循環の考えを育む
工作の他、塗り絵コーナー・クイズコーナーを展開

備考 :
・ペーパービーズ工作キットを事前に受取
・職員を必要としない塗り絵コーナー、クイズコーナーを展開
することで、飽きさせないブースを目指す



こものづくり教室

【派遣職員数】

9:00~13:00	うるま市	環境政策課	職員	1名
9:00~17:00	うるま市	環境政策課	職員	1名
13:00~17:00	うるま市	環境政策課	職員	1名
9:00~17:00	沖縄県地域環境センター		職員	2名

【イベント参加者】

こものづくり教室：248名（参加者へ配布していたノベルティ品を減少数から計算）

【活動の成果】

廃棄されるチラシから「ペーパービーズ」を作成。身近な廃棄物がアクセサリに変わる驚きと、分別の重要性を伝えた。

古着を裂いて編む「さきおりコースター」作りを実施。物を大切に長く使う、「資源循環」の考え方を親子で体験した。

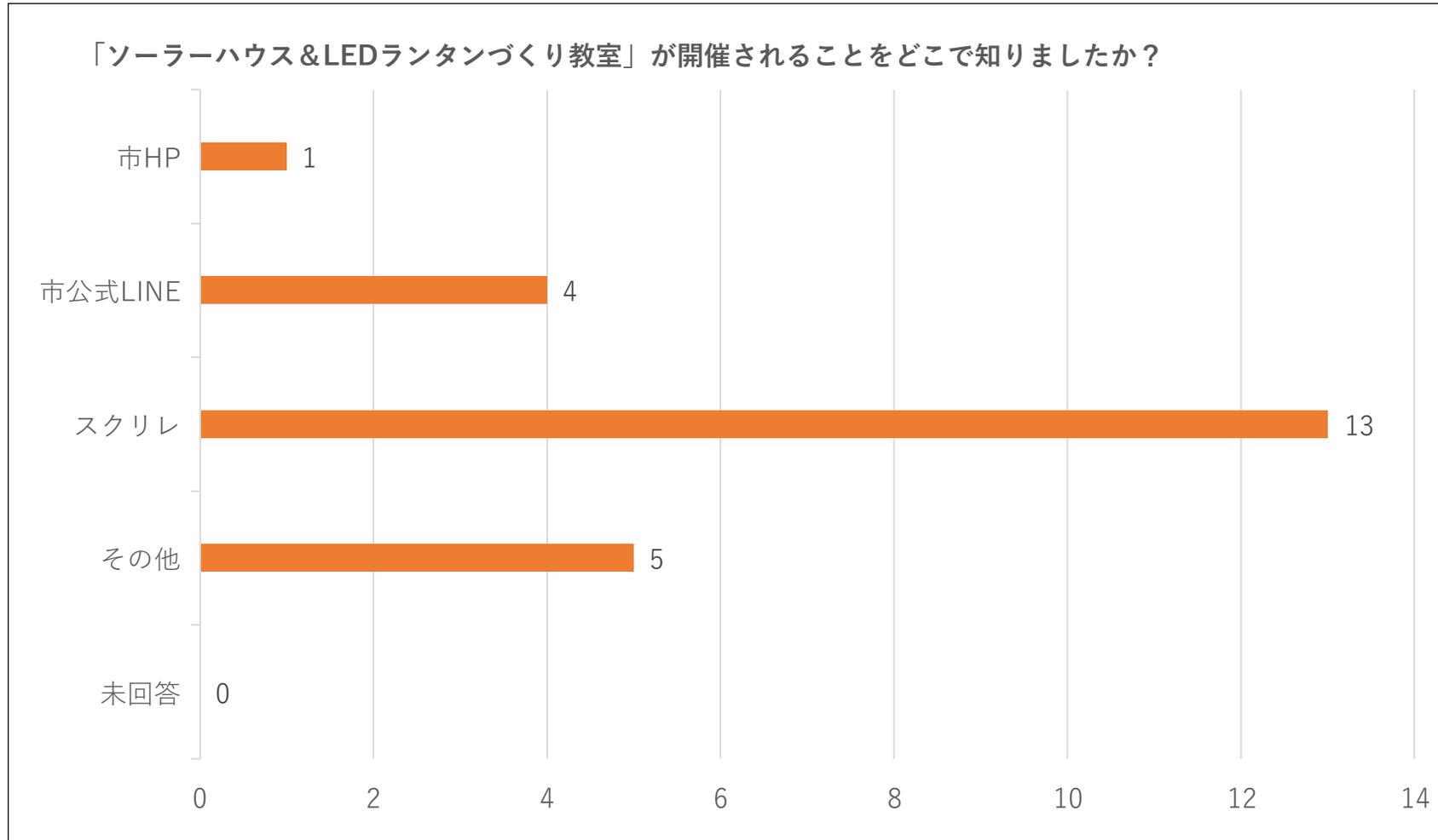
環境保全をテーマとした塗り絵やクイズを併設することで、未就学児から大人まで幅広い層へ環境保全の意識を啓発できた。



イベントの様子



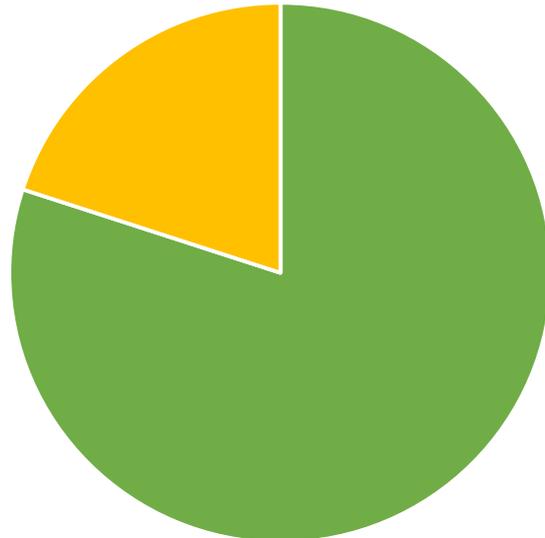
講座応募者（引率者）に対してアンケート実施【合計回答者23名】



講座参加者（引率者）に対してアンケート実施【ソーラーハウスづくり教室】①

講師の説明はわかりやすかったですか？（5件）

どちらともいえない 1件(20%)

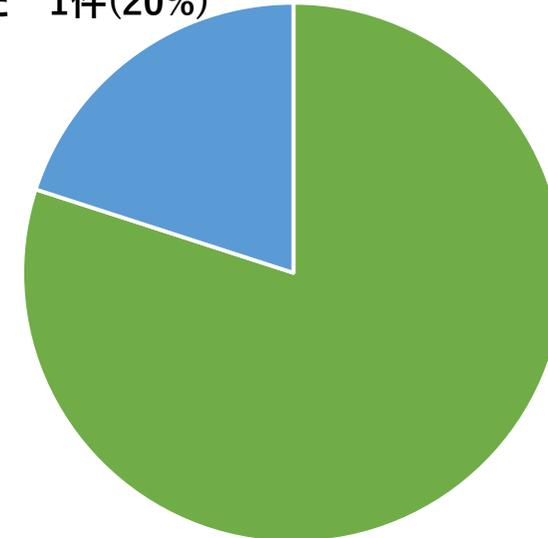


とてもわかりやすかった 4件(80%)

- 1. とてもわかりやすかった
- 2. わかりやすかった
- 3. どちらともいえない
- 4. わかりにくかった

作業の難易度はどう感じられましたか？（5件）

よかった 1件(20%)

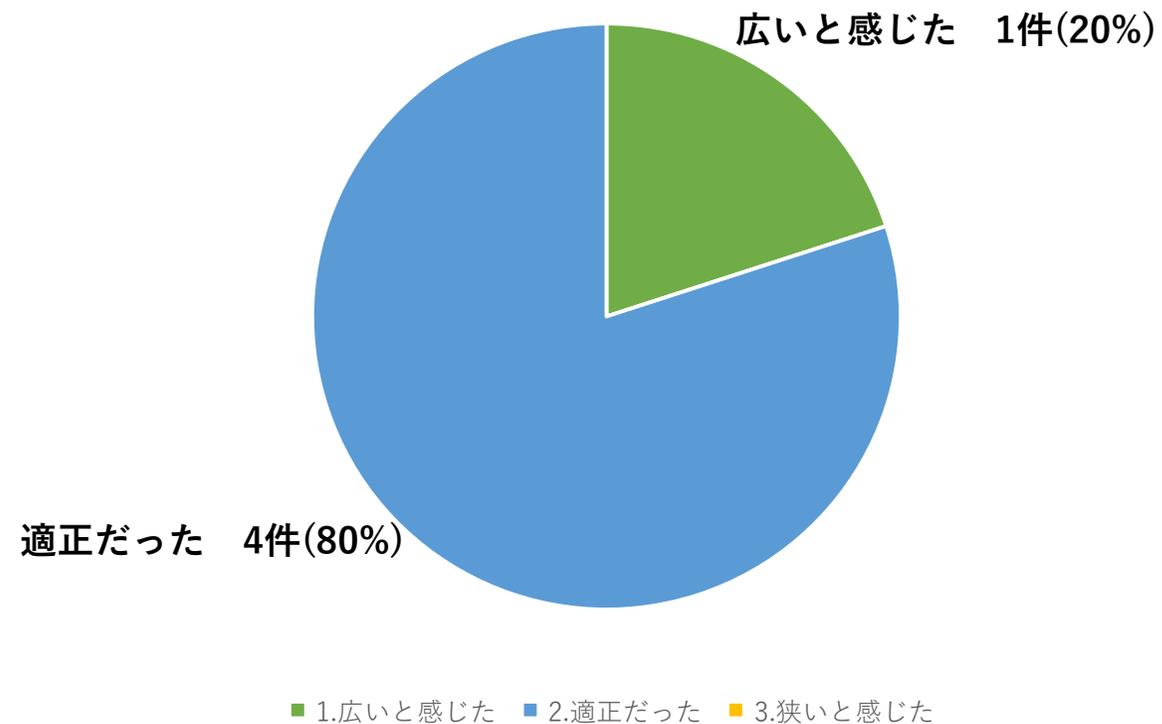


とてもよかった 4件(80%)

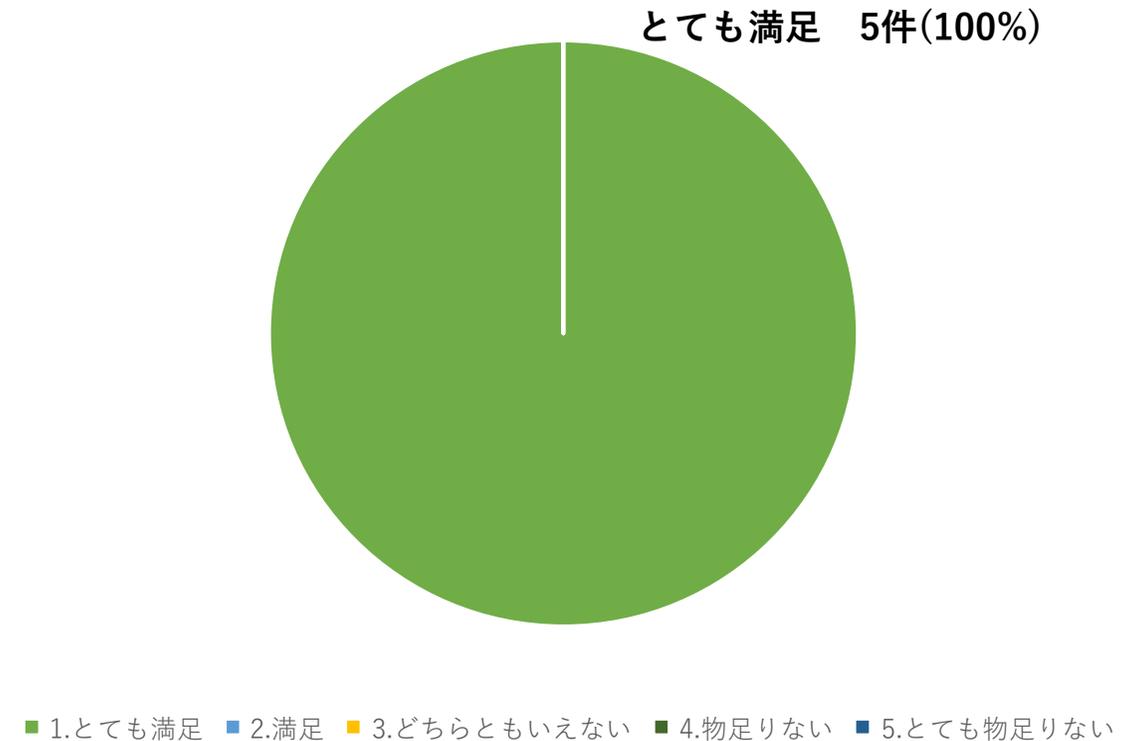
- 1. とてもよかった
- 2. よかった
- 3. どちらともいえない
- 4. むずかしかった

講座参加者（引率者）に対してアンケート実施【ソーラーハウスづくり教室】②

ブースの広さはどうでしたか？（5件）



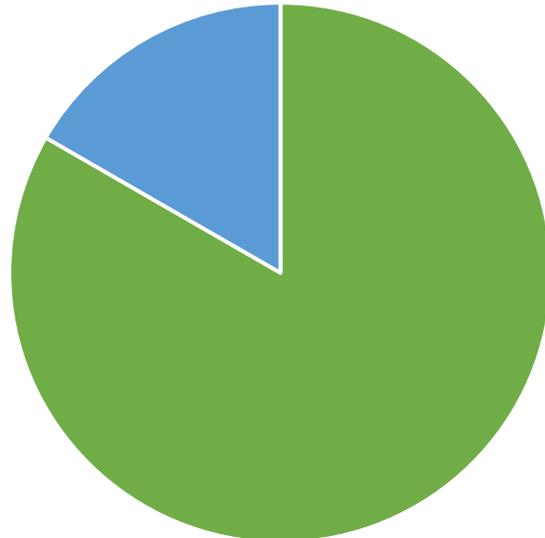
今回の出前授業はいかがでしたか？（5件）



講座参加者（引率者）に対してアンケート実施【LED ランタンづくり教室】①

講師の説明はわかりやすかったですか？（6件）

わかりやすかった 1件(17%)

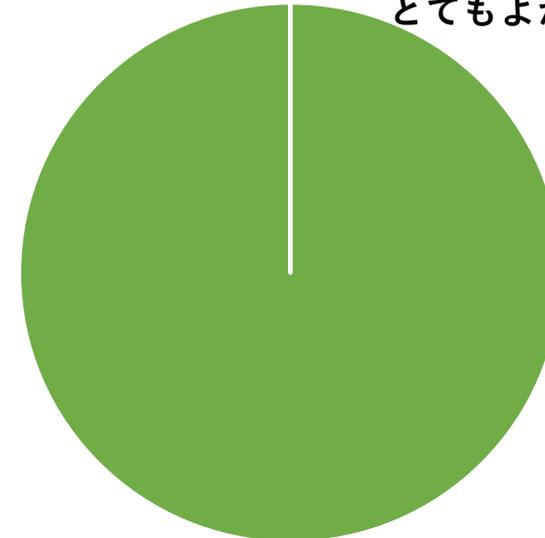


とてもわかりやすかった 5件(83%)

- 1.とてもわかりやすかった
- 2.わかりやすかった
- 3.どちらともいえない
- 4.わかりにくかった

作業の難易度はどう感じられましたか？（6件）

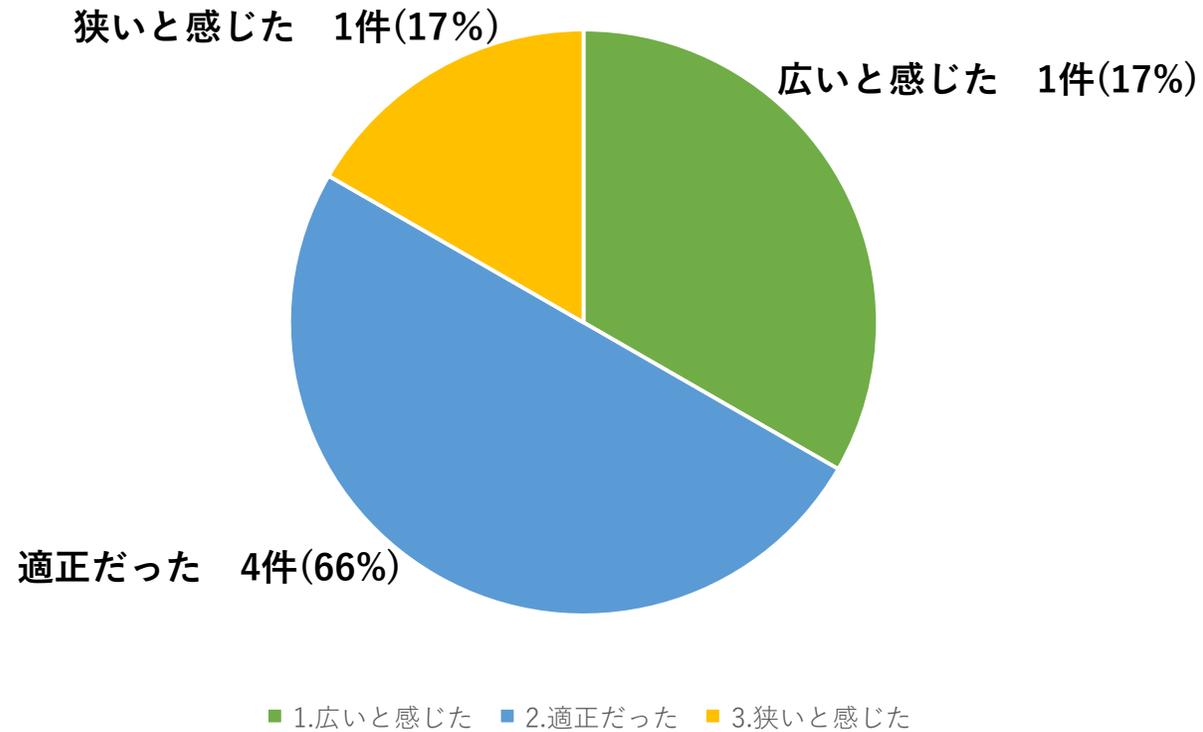
とてもよかった 6件(100%)



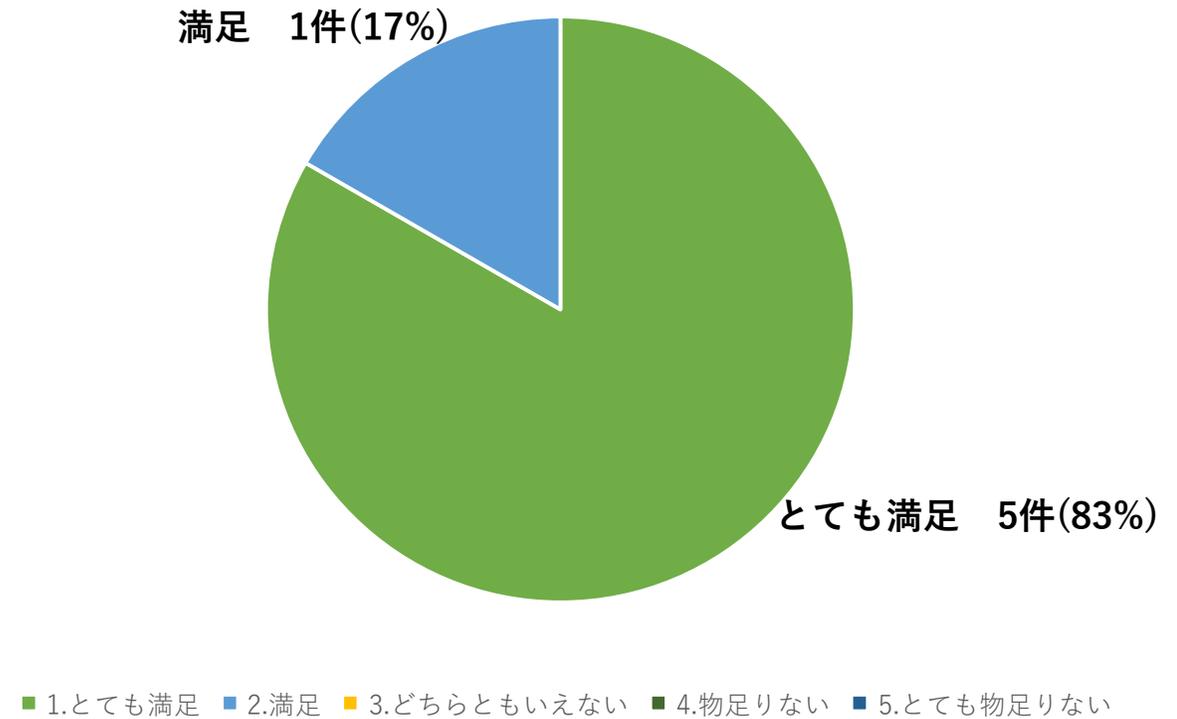
- 1.とてもよかった
- 2.よかった
- 3.どちらともいえない
- 4.むずかしかった

講座参加者（引率者）に対してアンケート実施【LEDランタンづくり教室】②

ブースの広さはどうでしたか？（6件）



今回の出前授業はいかがでしたか？（6件）



今後の環境保全学習や工作教室について、親子でやってみたいことはありますか？

NO	案
1	マイクロプラスチックが目に見えるのか、なぜ問題になっているのか、など勉強してみたい
2	ゴミになるものを使った工作
3	ソーラーで動く扇風機
4	木を使ったトントン工作
5	海辺のプラゴミ採取、植木活動
6	酪農体験、化学実験教室、海で生き物教室、稲作、畑、茶道
7	ビーチクリーンをやってみたいです
8	貝殻でランプ作り

今回の出前授業について、イベントの周知から開催に至るまでに改善案はございますか？

NO	意見
1	生涯学習の1テーマとして、温暖化と創・蓄・省エネルギーが学べてとても良い講座だと思ったので、せっかく席のあまりもありましたので、当日受付があっても良かったのかなと思いました（1人でも多くの子に学びを、とても良い講座なのでもったいないな、という思いからです。）周知方法は特に問題なく、良かったと思います！
2	イベント直前のメールに名前が無かったので、姉妹OKなのか、わかりにくかったです。
3	特にないです。毎回楽しみにしています
4	イベントとしてよかったです。楽しかったです。
5	とても楽しかったです。

反省事項・留意点など

- ▶ 事前申込が必要な講座について、エントリー完了の連絡を速やかに実施し、開催日数日前からリマインドをする必要があった
- ▶ アンケート内容について、講師との事前調整を経たうえで決定する必要があった
- ▶ 講座を急遽辞退する際の連絡先や、途中参加可能について、申込フォームやパンフレットに明記する必要があった
- ▶ 8日（日）開催のこものづくり教室で、各工作ブースでの所要時間の明記をし、参加者が職員へ訪ねなくても分かるような配慮をする。また、アンケートQRコードを数カ所に貼り付け、回答を促すことが必要であったと感じている
- ▶ 塗り絵の枚数が不足していたため、多めに印刷する
- ▶ 派遣職員数が不足していたため、対応出来ない来場者がいた。次回はより円滑な運営のための体制を強化したい

▶教育コンテンツの強化

今回の核となった「創・蓄・省」や「資源循環」の学習に加え、アンケートで要望が多かった「地域の自然保護」や「海洋保全」など、特定の分野にとらわれない幅広い環境啓発プログラムを展開します。協力事業者や地域団体との連携をさらに深め、多角的な視点から子どもたちが好奇心と環境意識を刺激する体験型イベントを拡充してまいります。

▶運営体制の強化

今回の運営における人員配置の課題を真摯に受け止め、次回以降は動線確保やサポート体制を根本から再考します。すべての参加者がスムーズかつ快適にイベントに集中できる環境を整え、イベント全体のホスピタリティと満足度の向上に務めます。

▶多角的な環境啓発のアプローチの展開

今回の「創・蓄・省」や「資源循環」のように、それぞれのテーマを掛け合わせた複合的なブース展開など、環境問題を多角的に「自分事」として捉えられる仕掛けを強化します。